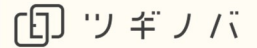




「つながる。ハーベスト」第5弾

利尻町定住移住支援センターツギノバ

大久保 昌宏氏



北海道のオススメのワーク施設とそこで出会いを創り出す「コンシエルジュ」をご紹介します「つながる。ハーベスト」。

第5弾は、初の離島！利尻島（利尻町）で「ツギノバ」を運営する大久保昌宏さんにお話を伺いました。



「ツギノバ」とは？

よく「移住定住」というフレーズを耳にしますが、こちらは「定住移住」支援センターなんです。

ツギノバをつくる前の2010年から「離島経済新聞社」の運営に携わっており、そちらの事業で2014年から利尻町と関わりを持っていました。

ここ利尻町も人口減少が進んでいて、年間30人弱が島を出て行くという状況ですが、そこには30通りの「出て行く理由」があり、それぞれ解決できれば、人口減少は起こらないと考えています。

減った30人を新たに外から連れてくるのではなく、まずは出て行く人たちの理由を聞いて、その問題を解決することで、ここで生活するための選択肢を広げる必要があると感じ、「定住移住支援センター」を設けて、町の人の悩みを聞きつつ、移住など島外の方向けの窓口も並行してやっていくことになりました。

なるほど。「ツギノバ」という名前には、どういった想いをこめられているのでしょうか。

ここは閉校となった旧沓形中学校を改修した施設ですが、2017年に中学校が閉校すると聞いた際に、中学校の建物自体がなくなってしまうたら、卒業生の子たちが残念がって、ますます島から離れてしまうのではないかと感じました。

そこで、これまでの歴史や島の成り立ちをきっちり受け継ぎ、次の未来をつくっていきましようということで、「ツギノバ」という名前にしました。



自然に関わる場として

定住や移住は、役場の様なかまこまった場所には相談しづらいと思っています。ここにはカフェラウンジもあり、コーヒードrinkながら「新しい家に移りたいんだけどどうかな？」とか自然の流れで相談できる場になればいいなと考えています。

島に詳しい方も、観光やワーケーション等で来た島外の方も、自然な空気感の中でつながっていただけのようなハブとなる場所となることを目指しています。

あと、島内にはカフェやWi-Fiがあまり整備されておらず、宿を離れると仕事をする場所も見つからないので、観光やビジネスで来た方々にも利用していただけるよう「ワーキングスペース」を設けているほか、オンライン会議に使えるミーティングルームや、様々な使い方ができる多目的ルームも設けています。

ターゲットとしては全方位を見ていて、ここで色々な人が交流して、一つのコミュニティになれば良いと考えています。

**つながる。HUB 利尻町定住移住支援センター ツギノバ**

閉校となった中学校をリノベーションしており、コワーキングスペースにカフェラウンジ、オンライン会議に活用できるミーティングルームも備えています。常駐スタッフによる定住・移住相談や島外企業のワーケーション受け入れなども行っています。



住所：利尻町沓形字日出町55  
H P : <https://tsuginoba.com/>  
※営業時間、料金等詳細はHPをご確認下さい

**【利尻島へのアクセス】**  
+札幌市（丘珠空港）から飛行機で約50分  
+稚内市からフェリーで約1時間40分



ツギノバ HP



インタビューに応じる大久保氏。奥に見える漁具「浮き玉」が漁業が主産業の利尻島らしさを感じさせる。

「地域の方々はこの様に「ツギノバ」を利用されているのでしょうか。」

「ワーキングスペースをつくって「こんな使い方あるんだ」と分かったことですが、子供を連れて宿題をしに来る方が結構いらっしやいますね。また現在では、町の地域おこし協力隊の任期を終えた方が塾を創業し、ここで教えています。塾があれば子供たちも入りやすくなるし、親も来やすくなります。他にも洋服の展示・販売を行ったり、ピアノ教室を開く方もいます。」

「島外の方も結構利用されますか？」

「ここ2年ほどはワーケーションの受入も、遠くは東京などから積極的に来ています。以前島内でアクティブレジャーを務めていた方が、この旧体育館部分を拠点に「利尻アクティビティ」を立ち上げ、SUP体験やレンタサイクルの運営を行っているので、彼らと連携して、ワーケーションプランを提供することが出来るのが強みです。」



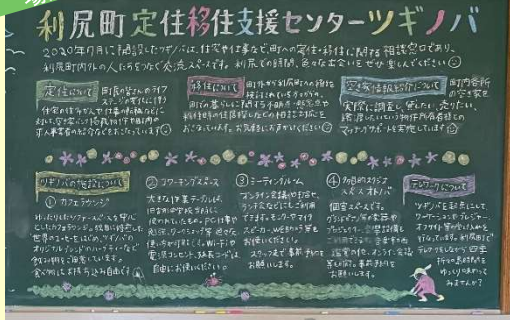
## ツギノバでつながる エピソード

—— 利尻島内の方と島外の方が、ここツギノバでつながったエピソードを教えてください。

五十嵐くん（※第1弾で紹介した大人の座の五十嵐氏）が取り組んでいる「北海道移住ドラフト会議」で利尻町が指名した方が、東京のWEB制作会社所属でもワーケーションに来てくれていたのですが、テレワークをしながら、合間に島の方々と仲良くなり、先ほどの「利尻アクティビティ」のWEB制作の支援をされてたりしています。

—— ワーケーションされている方が多いIT系の業種の方が持つスキルは、地域にとっても非常に有用なものですよね。逆に、島外の方からの「利尻島の誰か・何かを紹介して欲しい」というオーダーにも答えていただけるのでしょうか。

つながる。場所



旧学校らしく黒板を活用した施設案内。温かみのある文字からはスタッフの人柄も窺える。

もちろんです！その最たる例が移住相談ですが、仕事の相談は沢山ありまして、漁業に関わりたいたいという希望があった時には、漁業者さんを紹介しています。

利尻島は6〜9月まで、ウニや昆布が最盛期で人手が足りません。加えて観光繁忙期で飲食店も人手が足りないのので、季節限定で働ける方を求めています。僕は今、沖永良部島（鹿児島県）にも行っているのですが、そこらは農業の繁忙期が10〜5月と利尻島と真裏なので、利尻が終わったら沖永良部へという様に、一年を通して人材をシェアできるような仕組みづくりに取り組んでいます。

—— 大久保さんは、今お話に出た沖永良部島、利尻島、そして東京の3拠点生活とをされているとのことですが、利尻島は毎日航空便があるのが強みですね。

昨な校舎内にサテライトオフィスを整備して、すでに入居が決まっている企業もあるのですが、道内で営業活動を行うにあたり、札幌に飛行機で行ってそこから北上するパターンと、利尻であれば稚内市にフェリーで渡ってから南に攻めるパターンもあるので、思い切って利尻に営業拠点をと入居を決めてくださった企業さんもうらやいます。



## 利尻町のおススメ

—— 島外から来られた方に、色々と島のおススメを聞かれることも多いかと思いが、大久保さんは何を勧めますか？

お店だったり、利尻町内のラーメン「味楽」さんだったり、居酒屋であれば「かも

## （一社）ツギノバ代表理事 NPO法人 離島経済新聞社理事 大久保 昌宏氏



1979年東京都生まれ。広告制作会社等を経て、2010年に「離島経済新聞社」を設立。同社事業で2014年から利尻町と関わる中で、利尻の気候や人の良さに惹かれ、利尻島に拠点を設ける。

2020年に（一社）ツギノバを設立。町と連携し「利尻町定住移住支援センターツギノバ」の運営を行っている。利尻島以外にも沖永良部島にも拠点づくりを進めており、家族の住む東京との「3拠点生活」を送っている。

つながる。ヒト

めーさんなど、利尻島ならでものを食べていただける場所をご紹介します。この時期だとウニだったり、あと炭火で焼いた昆布やソイヤホッケなどが刺身で出てくるのも島ならではですね。

あと、我々がワーケーション等で来られた方をご案内する時は、「ウニ種苗センター」と「神居海岸パーク」にセットでお連れします。利尻の「つくって・守って・育てる」漁業を体感できる場所だと思っております。必ず見ていただいていますね。

—— 事前にワーケーションしたいと相談すれば、案内してもらえますのでしょうか？

はい！僕やスタッフが動ける範囲であればご案内します。

僕自身色んな地域を回りましたが、地域の人に案内してもらうことが一番蓄積だと思っていて、島や地域に対しての理解度

も深まるので、これから島に来られる方も、是非利尻の魅力を沢山知ってもらいたいと思います。

—— 最後に、これからツギノバに来られる方にメッセージをお願いします。

利尻島は自然も豊かで、都市部では見られない風景が本当に沢山あります。夏は過ごしやすいですし、仕事もとてもはかどると思います。一方で、冬の時期も凄く好きです。冬は地域の方がかまってくれて、とても仲良くなれますし、一度来れば、次来た時にまたお帰りと言ってくれる場所なので、是非一度島に来て、仕事をしながらも楽しんでいただければと思います！

—— ありがとうございます！次回は富良野市を訪問します。お楽しみに！

おススメ！

## 利尻町神居海岸パーク



かつて使用されていた漁場を利用した体験施設。本物の漁具を使用した「ウニ採り体験」や、「利尻昆布お土産づくり体験」など、利尻ならではの体験が楽しめます。

詳しくは「神居海岸パーク」HPをご覧ください



<https://rishiri-kamui.com/>